

台風と記念式典

10月6日の100周年記念式典が、大型で強い勢力の台風25号の影響が懸念されたため取りやめになりました。

実行委員会の協議の中で、一番に協議したのは安全でした。暴風警報の出る可能性がある。式典の行われている最中に台風が最も接近する等の情報を元に協議をして、6日の取りやめを決めました。

生徒の安全を第一に。来られる方にけががあってはならない。そういう言葉が何度も出てきた協議を経て、出した結論でした。

遠くから来られる方もある。早く決める必要がありました。

楽しみに待っていたと思います。地域の皆さんも、保護者の皆さんも同じ気持ちであったと思います。その思いに今回応えることができず、とても残念です。

10月6日の朝は、青空が見えました。

長い時間をかけて、一生懸命準備を重ねて来られた方々の顔が浮かびました。

重い鉛が一つ、心の中に沈みました。

式典のあるなしにかかわらず、生徒の皆さんは、100周年記念の年の大東高校の誇るべき生徒であることは、何ら変わりはありません。

先人たちの努力や支えの上に今がある。そして、時の流れの中でその名は忘れられている誰かの意思も今につながっている。私たちの大東高校の伝統はそうして紡がれてきました。

一步一步踏み固められた道はやがて大道となる。1万3千人を越える卒業生のそれぞれの歩みは今年の学園祭のテーマにあったように「百花繚乱」。それが、大東高校らしさにつながっています。

卒業式にも出られず、すぐに都会に出て働いたとおっしゃった方がありました。

就職して、英語で話せることがどれだけ大切か気づいたので、今の生徒に伝えてほしいとおっしゃった方がおられます。

大学に進学後、国際社会で活躍された方もおられます。中には、世の中の仕組みを変えるような仕事をされた方もおられます。

そして、この地域に残り、地域の支えとなり、大東高校の支えにもなられた方もおられます。

「誠実」「勤勉」は開校以来の校訓です。それに高い理想を志す「高邁」を加えて、大東高校は100年を迎えています。

100年の誇りを胸に、顔を上げて、自分自身の次の一步を踏み出してもらいたいと思います。

式典のあったはずの時間、今、学校の周りには、暴風が吹き荒れています。

吹き付ける人生の風に負けるな！ 頑張れ！！大東高校生

10月6日 創立100周年記念式典の日に

校長 中村 訓子